

Kimono Making 和裁

日本の伝統衣装を仕立てる多彩な美を引き出す表現者

日本の伝統衣装の和服を仕立てる競技。9時間という競技時間内に女子用あわせ長着を制作します。和服は、茶道や華道、踊りなど、日本の伝統文化に不可欠な衣装です。現代でも、日本だけでなく世界中で多くの人に親しまれています。最近では涼を呼ぶ夏の浴衣も若い人に人気です。布地の材質や染色、様々な風合いや色、柄が作られ、普段着から訪問着、礼装着まで種類も多様。それらを仕立てる和裁は、直線的な裁断・縫製ながら多彩な美が表現され、技能者の腕の見せどころが満載の競技です。

競技について 競技時間：2日／9時間

競技は、女子用あわせ長着を縫製し、その技を競います。採点項目は、仕様誤り、できれば、作業態度の3つ。支給される同一の生地を使用し、一部縫製を自宅で行い、会場で仕上げまでを行います。左そでと表身ごろ、裏身ごろのおくみ付けから仕上がりまで、細かい仕立て寸法にしたがって、素早く作業を進めていきます。

競技職種と生活との関わり

成人式や結婚式など、特別な日には欠かせない服であり続けている和服。日本古来の民族衣装である和服は、"kimono" が国際的に通用する言葉となっているほど、ひとつのファッションとして世界に広く認知されています。また、近年は夏のイベントで浴衣を気軽に着る若い人も多く見られます。日常のなかに息づく日本文化として、「和裁」の技能は非常に重要です。世界に誇れる和服の文化が受け継がれていくために、この技能者は大切な役割を担っています。

微妙なつり合いが難しい、 厚みの違う2種類の生地をピタリと合わせられるか

競技のポイントは、表地と裏地を合わせるところです。厚さや伸びの違う2種類の生地を微妙なつり合いで合わせなければならず、各選手の技能差が最も出る部分です。全体の縫い目がまっすぐなこと、コテ光り、焼けこげ、しみ、入針等がないかどうかポイントです。このような和裁の緻密で高度な技術は、日本古来の文化と伝統から生まれた「きもの」とともに、これからの未来に脈々と受け継がれていくことでしょう。

鈴木 勲吾 主査 一般社団法人全国和裁着装団体連合会



<2023年大会 競技課題>

技能五輪は、自分が今まで身につけてきたことを結果として残せる場だと思います！

前回大会 金メダリスト！
江崎 美紀さん
大原和服専門学園

